



414
A 137



ホルモサ島ノ人口及ヒ各所緊要ノ地ヲ攻撃スヘキ
方法ヲ尤ニ録ス其島ノ景況ハ實地ヲ檢ヨリ取ルモ
ノナレハ毎ク信用スルニ足レリ又其ノ條々ハ此
島ヲ征討スル所ニ當リ日本政府ニトリテハ極メテ
樞要ナルモノト予ハ疑ヒラ入レズ
此島ノ人民ハ各種ノモノニテテ則野蠻ノ族ナリ
東方ノ海岸及ヒ島ノ中央ニアル山中ニ潛居
シ常ニ支那人ハ抗敵ス然レモ其蕃族ノ内
トベーボン人ハ往テ支那人ニ伏從シ親シク

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈



婚ヲ結ビシテアリ此族ハ山嶽ヲ経畧トシ各處
ニ群集ス右兩種ノ異族ニ般支那人ト約ヲ成
シ互ニ貿易ヲナス支那領ノ内西北ノ海岸ニ
アル村落及ヒ市街ハ支那各地ノ人民ニシテ此ニ
移住ス是等ハ互ニ嫉妬遺恨ヲ含ムテ怡毛
外國人ニ對スルカ如シ獨リ廣東人ハ稍ヤ才
能アリ且ツ職業ヲ專務トナス者ナレハ彼等
ノ常ニ我慢ニシテ且ツ言語ノ相違ナルヲ故ニ
忌憚セリ予屢々此村ヲ路ヲ経行セシニ其土人ノ
言語ハ全ク廣東人ト大ニ相違セリ茲ニ因テ之

ヲ見レハ彼等ハ合体ニテ抗敵スルノ軍ト更
ニ思フサルシ

軍兵ハ皆土人ニシテ一ヶ年ニ度ヒ兵ヲ編制シ大
約火繩銃ヲ用ヒ或ハ鎗鋒ヲ用ユル者アリ
侃シ整列シタル兵ハ毛鮮ニシタニスイ「キ」ロシ
カカラ「ノ」三港ニアル礮臺ハ毎ク破損シタリ唯々
ハ秋ノ「コ」シホト「レ」ヲ以テ常ニ防守ス

臺灣府ハ人口凡五萬ナリ此地ヨリ凡三里半ノ
隔ニアル「ア」ニ「レ」シ「ア」好天ノ折兵庫ヲ上陸ヤ
シメハ此所ハ容易ク攻取リ得ヘシ或ハ「カ」カラ「ニ」

上陸セシメテモ可ナリ此ノ地ハ距離三十七里ニシテ
海岸ヲ強行シ得ルシ又臺灣ノ城郭ハ稍ヤ破損
ニ及ベリ其内地ニ市街數ヶ所アリテ僅カニ人口
六千乃至八千ニ過ス則チ「アリユカニ」又「ヤシ」人等
是ナリ併シ防禦ノ手当弼モナケレハ容易ク乗
取リ得ルシ此地ハ支那ノ所轄ナレハ一般豊饒ナ
リ又道路ニハ一面石ヲ敷ケリ北部ニ當リ「チユ
シヤン」地ニハ城市アリテ人口三カヨリ乃至四カナリ
此府中ヨリ四里以内ニアル「ボロ」シヤン「エ」天氣ヲ
擇マズシテ兵ヲ上陸セシメハ攻取ル「容易ナ

ルベシ其故ハ予此所ヲ通りシ折リ防禦ノ手
当ナク唯々許多ノ小舟廻舟ホアルノコトナレハ
ナリ殊ニ此府ニアル城郭ハ已ニ破損ニ及ベリ
「チユシヤン」ハ勿クス「ヨ」ヨリ僅カ四千里ノ隔ナリ
平原ノ地ト膏腴ナル平地ノ間ニアル「チユシヤン」
ヨリ十三里ノ所へハ全ク城堡ナク人口凡ニ萬此
地ハ臺灣ノ府及「チユシヤン」ヨリハ容易ク勿
シク「河」ヨリ小舟ヲ以テ攻入セハ極メテ乗取リ
得ルシ起那宮氣ハ廓外ニライテハ權威更
ニ振ハサルハ至ル所敵兵ニ抗敵スル者更

ニアルマジト予ハ信用セリ

支那政府ト兵ヲ交ユルノ節ハ「キーロ」ニ近
キ北部ニ在ル石炭礦ハ所要ノ処ナリ
此礦ハ兵ヲ以テ攻取ルベシ「キーロ」ノ市
街及ヒ其処ノ深谷ヲ予ニ入ル、凡ハ其島人
石炭礦ノ道ヲ絶テ敵船石炭ヲ積入ル
不能ノミナラズ支那海軍ヲ殆ト不用ニ属
セシメ困難ニ置ベシ如何トナレハ支那人ニ於テ
ハ當時福州ニ石炭囤積ナリ若シ石炭ヲ
要スル凡ハ必シモ「キーロ」ニ求メザルヲ得サレバ

ナリ因テ礦夫ヲ能ク取扱ヒ適宜ノ金ヲ
投ズレハ勢メテ働クニシ
前件ハ此度ホルモサ出兵ノ為メ樞要ナル
事柄ト予思按セリ

七十四年四月廿四日

ケニール

鑛山司長

伊東君

